

— 現地での学びを、未来へ —

大府市平和大使派遣事業記念誌



2018年度 ~ 2025年度



2018 年度



2019 年度



2022 年度



2023 年度



2024 年度



2025 年度

CONTENTS

1	はじめに 市長あいさつ
2	事業概要
4	平和大使紹介
6	委嘱状交付式
7	事前勉強会
	現地派遣
10	・ 広島（2018年度、2023年度、2025年度）
14	・ 長崎（2019年度、2024年度）
18	・ 沖縄（2022年度、2023年度、2024年度、2025年度）
22	・ 知覧（2025年度）
24	派遣報告会
26	大府市平和祈念戦没者追悼式
27	おおぶ平和のつどい（2025年度）
28	平和大使その後の活躍
29	まとめ
	【資料編】
30	・ 平和大使派遣事業参加者一覧
32	・ 大府市の平和に関する取り組み
34	・ 大府市の平和のあゆみ（年表）
35	・ 平和都市宣言文

はじめに

ごあいさつ

大府市長 岡村 秀人



本市では、2016年に「平和都市」を宣言し、過去の戦争を知り、平和の大切さや尊さを市民の皆様と共有して考え、未来につないでいくことを目的とした平和事業を積極的に推進しております。中でも、平和大使派遣事業や市内の全小中学校への被爆樹木二世アオギリの植樹など、若い世代に戦争の記憶を継承し、平和意識を醸成するためのさまざまな取り組みに力を入れて実施しているところです。

平和大使派遣事業は、2018年度の開始以来、2025年度までに76人の中学生や高校生を平和大使として広島や長崎、沖縄、鹿児島県の知覧に派遣し、実際に現地に行って、肌で感じた戦争の悲惨さや平和の大切さを多くの市民の皆さんに伝えていただきました。

昭和100年、戦後80年という大きな節目の年を越え、私も含め、戦争を直接知らない世代が大部分を占める時代を迎える中、本市では、市民の皆様と平和を感じる瞬間を共有し、その思いを次世代へ受け継いでいきたいという願いを込め、これまでの平和大使の派遣をまとめた記念誌を発行いたします。

この記念誌を通じて、平和大使たちの学びや思いに触れ、平和についてともに考えていただく機会となれば幸いです。

2026年9月

事業概要

■ 大府市平和大使派遣事業とは

戦争を直接知らない世代が大部分を占め、戦争の悲惨さや平和の大切さについて経験者から直接聴く機会が減少しつつあります。

市では、2016年9月に「平和都市」を宣言し、「平和のバトン」を守り、次の世代のこどもたちに渡していくことを重大な責務と掲げています。

その取り組みの1つとして、市内在住の中学生らを対象に、戦争に関わる歴史を持つ国内都市に派遣し、現地で実際に自分たちの目で見て、学んだことを多くの市民に伝えてもらう「平和大使派遣事業」を2018年度から実施しています。

▼これまでに大府市が平和大使を派遣した国内都市（年度で行き先が異なる）

派遣都市・概要		対象	主な派遣場所	累計派遣者数
広島	原子爆弾による被害を受けた被爆地	中学生	広島平和記念資料館	21人
長崎	原子爆弾による被害を受けた被爆地	中学生	長崎原爆資料館	16人
沖縄	激しい地上戦が行われた戦地	中学生	ひめゆり平和祈念資料館	34人
知覧	特別攻撃隊の出撃基地が置かれた地	高校生	知覧特攻平和会館	5人



この事業では、派遣前には事前勉強会、派遣後には派遣報告会や大府市平和祈念戦没者追悼式への参加を通じて、平和の大切さを自分事として捉え、自らの言葉で広く発信し、若い世代が主体となって平和のバトンを未来へつなぐことを目指しています。

平和大使は、公募により選考しています。戦後80年を迎えた2025年度は、中学生を対象とした広島、沖縄派遣に加え、新たに高校生を対象とした鹿児島県の知覧への派遣も実施しました。

私はこんな理由で応募しました！

- 学校の授業で学んだことを自分の目で見てみたい。
- 自分と似た年齢の若者の命を多く奪った「戦争の悲惨さ」を自分自身で感じてみたい。
- 平和を遠い過去の出来事や他人事と感じてしまっている自分を変えたい。



■ 派遣実績

年度	派遣先	対象・人数	年度	派遣先	対象・人数
2018	広島	中学2年生・8人	2024	長崎	中学2年生・8人
2019	長崎	中学2年生・8人		沖縄	中学生・8人
2022	沖縄	中学2年生・6人	2025	知覧	高校生・5人
2023	広島	中学2年生・8人		広島	中学生・5人
	沖縄	中学2年生・8人		沖縄	中学生・12人

※ 2020 年度、2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※ 2022 年度は、8 人のうち 2 人が派遣時に欠席

■ スケジュール（2025 年度）

日程		内容
平和大使募集	4 月 1 日（火）～ 5 月 7 日（水）	・ 広報おおぶや市公式ウェブサイト、市内中学校で周知
委嘱状交付式・ 事前勉強会①	6 月 14 日（土）	・ 選出された 22 人に委嘱状を交付 ・ 大府市遺族会会員による戦争体験講話 ・ 戦争と平和の資料館ピースあいち（名古屋市）見学
事前勉強会②	7 月 5 日（土）	・ 板津昌利氏講話 ・ SNS 研修
知覧派遣	7 月 23 日（水）～ 25 日（金）	・ 知覧特攻平和会館見学 ・ 鹿屋航空基地史料館見学 ・ 戦跡フィールドワーク（鹿屋市）など
知覧派遣 事後勉強会	7 月 31 日（木）	・ 知覧派遣振り返り ・ おおぶ平和のつどい事前打合せ
おおぶ平和のつどい	8 月 3 日（日）	・ 東京大学先端科学技術研究センター小泉悠准教授 とのパネルディスカッション（知覧派遣者） ・ 運営補助（広島・沖縄派遣者） ・ 映画「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」鑑賞
広島派遣	8 月 5 日（火） ～ 7 日（木）	・ 広島平和記念資料館見学 ・ 第 1 回全国こども平和サミット出席など
沖縄派遣	8 月 20 日（水） ～ 22 日（金）	・ ひめゆり平和祈念資料館見学 ・ チビチリガマやシムクガマ見学など
派遣報告会	9 月 13 日（土）	・ 派遣を通して学んだことの発表 ・ 「わたしの平和宣言」作成など
大府市平和祈念 戦没者追悼式	10 月 5 日（日）	・ 献花 ・ 「平和に向けたメッセージ」発表 ・ 「わたしの平和宣言」発表

平和大使紹介

2018 年度

広島派遣



2019 年度

長崎派遣



2022 年度

沖縄派遣



2023 年度

広島派遣



2023 年度

沖縄派遣



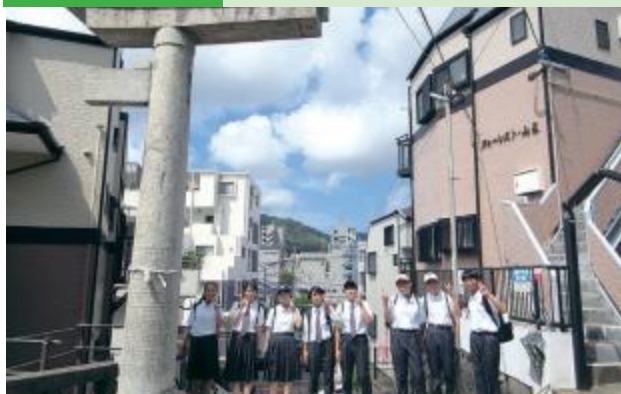
コラム

平和大使メンバーは、みんな違って、みんないい

平和大使に選ばれた中学生や高校生は、学校や学年もさまざまです。最初は緊張している様子も見られますが、事前勉強会や派遣を通して、少しずつ打ち解け、自然と会話も増えていきます。それぞれの個性を持つ生徒が関わり合いながら学ぶことは、心に残る大切な経験になっています。

2024 年度

長崎派遣



2024 年度

沖縄派遣



2025 年度

知覧派遣



2025 年度

広島派遣



2025 年度

沖縄派遣



取り組み

アオギリ植樹プロジェクトを知っていますか

平和首長会議事務局（広島市）から譲り受けた「被爆樹木二世アオギリ」の苗木を市内の全小中学校などへ植樹し、苗木の育成を通じて平和意識の醸成を図っています。



2026 年度全校へ植樹完了予定！

委嘱状交付式

委嘱状交付式は、選ばれた平和大使同士が初めて顔を合わせる機会です。初対面で緊張した様子も見られる中、一人ひとりが市長から直接委嘱状を受け取り、平和大使としての自覚と期待を胸に刻みます。



市長からのメッセージ



市長からの委嘱状交付

動画

戦後80年 平和をつなぐ旅

2025年に大府市の行政広報番組「Obu Crescendo」シリーズの1つとして制作しました。主に広島派遣の平和大使に密着し、平和大使が自らの目で、耳で、そして心で「戦争の記憶」と「平和への願い」を受け止め、未来へとつないでいく姿を記録しています。



事前勉強会

平和大使は、委嘱後、戦争や平和に関する基礎知識、戦争の歴史や背景について学ぶ1～2回の事前勉強会に参加します。派遣先での学びをより深められるよう、現地で何を学ぶのかを自分なりに考え、平和大使としての意識を高めた上で現地を訪れます。

■ 戦争・被爆体験を学ぶ

市内在住の戦争体験者などから戦争体験の講話を聴きます。実際に戦中・戦後の生活を経験した方から、直接、話を聴く機会は大変貴重なものです。



大府市遺族会会員による講話



愛知県原水爆被災者の会会員による講話



大府市遺族会
中田紀子さん

平和の輪を広げてほしい

勉強会では、戦争体験講話を通して、私の父への思いとともに、平和への願いを平和大使の皆さんに伝えました。平和大使として同世代の子とともに現地で学ぶことは、旅行では得られない気づきにつながると思います。現地での学びを糧に、さらに理解を深め、その経験を広げ続けてほしいです。地元の太府市にも戦争に関する資料や関連するイベントがあるので、積極的に平和について考える機会にしてほしいと思います。



愛知県原水爆被災者の会（愛友会）
大府支部 笹田和子さん

願いは平和のみ

私は1歳8か月で被爆し、戦争と原爆によって4人の姉全員を亡くしました。姉たちの顔を見た記憶はなく、写真も残っていません。そんな私の願いは、戦争のない平和な日が続くことです。

平和大使の皆さんには原爆の恐ろしさを伝えさせてもらいました。派遣先では原爆資料館など、戦争や原爆がもたらしたものをしっかり見てほしいです。

一人ひとりが考える平和の形は異なると思います。現地で学び、感じたことから、自分なりの平和について考え、その思いを次の世代に伝えていってほしいです。

コラム

大府市に残る戦争資料を見たことはありますか

戦中・戦後には、大府市においてもさまざまな出来事があり、その記録が多く残されています。ぜひ「語り継ぐ戦争体験 ―大府の戦争記録―」や歴史民俗資料館に保管されている資料をご覧ください、大府の歴史にも目を向けてみてください。



■ 地域の戦跡や平和を学ぶ

市役所の市民健康広場にある平和都市宣言碑や被爆樹木二世アオギリ、大倉公園にある加治慶之助邸の防空壕などを見学し、身近な戦跡や平和について学びます。



2018年度

被爆樹木二世アオギリ



2019年度

大倉公園防空壕

■ 仲間と考え、伝える力を学ぶ

グループワークでは仲間とともに平和について考え、意見を交わしながら学びを深めています。

また、学んだ事実や平和への思いを市民の皆さんに広く伝える役割もあります。2024年度と2025年度は、そのための取り組みとして「SNS研修」を受講しました。



2024年度

平和に関するグループワーク



2025年度

市広報担当による SNS の活用研修

紙芝居

テンニンギク

大府市在住の絵本・紙芝居作家である、あいばまさやす氏の作品で、特攻で戦死した男性とその家族をめぐる物語を描いた紙芝居があります。2026年度には絵本としても刊行しました。



■ その他の戦争に関する学び

沖縄戦の歴史を伝えるパネル展や資料展示などを行っている「戦争と平和の資料館ピースあいち（名古屋市）」を見学（2022年度・2025年度）しました。また、2025年度には知覧特攻平和会館の初代館長・故板津忠正氏の長男である板津昌利氏を招き、特攻を語り継ぐ活動に人生を捧げた、元特攻隊員である忠正氏に関する講話を聴きました。



2022年度

戦争と平和の資料館ピースあいち



2025年度

板津昌利氏の講話
(知覧特攻平和会館初代館長：故板津忠正氏長男)

派遣前に聞いてみた あなたにとって「平和」とは？



2023年度
広島派遣

渡邊 颯

守り続けるもの

平和は、今もこれからの未来においても守り続けていかなければならないものだと思う。そのために私たちにできることは、戦争を忘れないことであり、現地で学んだことを多くの人に伝えていきたい。



2023年度
沖縄派遣

関戸 美舟

争いの対義語

私は、「争い」の対義語が「平和」だと思う。争いは悲劇しか生まないが、平和は幸せや平等を生む。誰でも暮らしやすく、争いのない生活を送るために、当時のことをしっかり学びたい。



2025年度
沖縄派遣

田平 空々

おびえることのない世の中

人々がおびえることなく、安心して暮らせる世の中のこと、お互いにゆずり合い、支え合える世界が「平和な世界」だと思います。



2025年度
広島派遣

深谷 洵太

守りたいものを守る環境

人にはそれぞれが守りたいものがあって、それを侵害されることで戦争が起こると考えます。平和な社会をつくるには、守りたいものを守る環境が必要だと思います。

自分なりの考えを持ち、それぞれの派遣先へと向かいます。

■ 現地派遣スケジュール（2025年度）

1日目

8:30	市役所集合・出発
11:40	広島駅到着
13:30	広島平和記念資料館見学
17:30	宿泊先到着

2日目

5:50	宿泊先出発
8:00	平和記念式典出席
10:00	第1回全国こども平和サミット出席
14:00	千羽鶴献納、平和記念公園見学 (ボランティアガイドによる案内あり) 原爆ドーム見学 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 とうろう流し見学
19:00	宿泊先到着

3日目

7:40	宿泊先出発
9:00	第1回全国平和学習の集い出席
15:00	広島駅出発
19:30	市役所到着・解散

2018年度



2023年度



2025年度



■ 広島平和記念資料館



2018 年度



2023 年度

■ 平和記念公園



2018 年度

被爆アオギリ



2018 年度

千羽鶴献納



2025 年度

平和記念式典



2025 年度

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



平和大使コメント

被爆者の方が残してくださった「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」というメッセージに応えるためにも、私たちのような若者が、平和がどれだけ大切なものを次の世代に受け継いでいくことが、これからとても重要だと思いました。

(2018 年度派遣 城 知希)

■ 原爆ドーム



■ 袋町小学校平和資料館



■ 第1回全国こども平和サミット、第1回全国平和学習の集い



全国こども平和サミット

全国平和学習の集い



平和大使コメント

同年代の人たちと「世界はどうすれば平和になるのか。」について話し合う中で、争いそのものではなく、それを武力で解決しようとするのが問題なのだという事に気づきました。そして、誰もが自分なりの幸せを感じられることが本当の平和なのだという新たな考えを持つことができました。

(2025年度派遣 早川 一路)

報告書から抜粋

平和大使の今 6つ質問してみた

新たな出会いと平和への一歩



2023 年度 広島派遣
西 勇樹
(現：愛知県立旭丘高等学校)

■平和大使に応募したきっかけを教えてください。

祖父母の影響で幼い頃から戦争や平和について学び、戦争は誰も幸せにしないと感じてきました。平和大使として戦争のリアルを自ら学び、その経験を周囲や次の世代へ伝え、平和の大切さを広めていきたいと考え応募しました。

■派遣前と派遣後で、「平和」に対する考え方はどのように変わりましたか。

派遣前は、「今じゃあり得ない」「自分が生まれる何十年も前の話だ」と漠然と戦争は良くないというイメージでしたが、この派遣での新たな出会いを通じ、平和は誰かが守るものではなく、一人ひとりの行動や思いやりによって受け継がれていくものだとの認識を一変させられました。

■広島派遣中に最も印象に残っている出来事や出会いは何ですか。

最も印象に残った出会いは、ピースパークツアーガイドである大学生の田中さんです。田中さんは体験者から聞いた当時の情景を伝え、僕たちに寄り添いながら平和の輪を未来へつなぐために自分に何ができるかについて考える機会を与えてくれました。この出会いはこれからの僕の生き方を考える大きなヒントとなりました。

平和に対する考え方が変わった派遣



2023 年度 広島派遣
清水 美来
(現：名古屋市立緑高等学校)

■派遣で学んだことを、どのように伝えてきましたか。

無理に難しい言葉で伝えようとするのではなく、派遣先で感じた自分自身の気持ちを、家族や友人に率直に話してきました。その話を聞いて感動してくれた友人もいて、自分の経験や思いを伝えることの大切さを実感しました。

■平和大使の経験は、その後の生活にどのような影響を与えましたか。

戦争に関するニュースを他人事として捉えるのではなく、自分自身の問題でもあるのだと考えられるようになりました。また、「なぜ今も戦争が起きているのだろう。」と自分なりに考える力も、派遣を通して身に付いたと感じています。

■当時の自分に伝えたいことは何ですか。

戦争について詳しい知識がなくても大丈夫。少しでも興味や関心があれば、その好奇心を生かしてぜひ応募してほしいと伝えたいです。



■ 現地派遣スケジュール（2024 年度）

1 日目

5:30	市役所集合・出発
6:10	中部国際空港到着
7:30	中部国際空港出発
9:05	長崎空港到着
10:40	被爆クスノキ・山王神社一本柱鳥居見学
12:00	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館見学
12:50	長崎原爆資料館見学 (平和案内人によるガイドあり)
13:50	平和公園見学 (平和案内人によるガイドあり)
15:00	長崎市永井隆記念館見学
16:00	被爆体験講話聴講
17:15	宿泊先到着

2 日目

9:00	長崎SDGs 平和ワークショップ
10:45	宿泊先出発
11:45	長崎駅出発
13:35	福岡空港到着
16:00	福岡空港出発
17:20	中部国際空港到着
19:50	市役所到着・解散

2019 年度



2024 年度



■ 長崎原爆資料館



2019 年度



2019 年度

■ 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館



2024 年度

■ 被爆体験講話



2024 年度

■ 平和公園



2019 年度



2024 年度

平和大使コメント



特に印象に残ったものは、原爆資料館に展示されていた、11 時 2 分を指したまま止まった柱時計でした。一瞬にして破壊された長崎の街を物語っているように感じられ、深く心に残りました。

(2019 年度派遣 工藤 香奈)

報告書から抜粋

■ 長崎市永井隆記念館



■ 被爆クスノキ・山王神社一本柱鳥居



■ 長崎SDGs平和ワークショップ



平和大使コメント

山王神社の一本柱鳥居が特に印象に残っています。大きな石造りの鳥居の片方が倒れたまま残されている姿を見て、原爆の凄まじい威力を実感し、鳥肌が立ちました。
(2024年度派遣 伴 帆夏)



報告書から抜粋

平和大使の今 6つ質問してみた

平和について学ぶことの大切さ

2024年度 長崎派遣

池田 優里

(現：愛知県立昭和高等学校)



■平和大使に応募したきっかけを教えてください。

戦争の出来事については学校の授業程度でしか知らなかったものの、より深く学んでみたいと思い応募しました。

■派遣前と派遣後で、「平和」に対する考え方はどのように変わりましたか。

派遣前は、戦争を過去の出来事として捉え、平和も当たり前にあるものだと思っていました。しかし、派遣先で被爆資料や戦争の記録に触れたことで、今の平和は決して当たり前ではなく、多くの人々の努力によって守られているのだと実感し、平和についてより自分事として考えるようになりました。

■長崎派遣中に最も印象に残っている出来事や出会いは何ですか。

長崎原爆資料館の展示が最も印象に残っています。特に原子爆弾の模型の展示を見たときは、その大きさに驚き、戦争の恐ろしさを改めて実感しました。また、被爆者の方が「今の平和な日本で戦争など起こるわけがないと思っていたことが一番怖い。」と語られていたことも強く心に残っています。

■派遣で学んだことを、どのように伝えてきましたか。

小学生のいところに平和について話したり、中学校で戦争に関する授業を受けた際に、長崎で実際に見聞きした体験を友人に伝えたりしてきました。

■平和大使の経験は、その後の生活にどのような影響を与えましたか。

自分の次の世代となる若い人たちにも平和の大切さをもっと伝えていきたいと考えるようになりました。

■当時の自分に伝えたいことは何ですか。

平和を守っていくためには、若い世代が過去の事実を知り、それを伝えていくことが大切だと伝えたいです。

■ 現地派遣スケジュール（2025年度）

1日目

6:30	市役所集合・出発
7:10	中部国際空港到着
7:55	中部国際空港出発
10:10	那覇空港到着
12:30	ひめゆり平和祈念資料館見学
14:00	沖縄県平和祈念資料館見学
16:40	アメリカンビレッジ見学
19:40	宿泊先到着

2日目

9:00	宿泊先出発
9:10	チビチリガマ見学
10:00	シムクガマ見学
10:50	座喜味城跡見学
11:30	ユンタンザミュージアム見学
13:50	平和講話及び平和ディスカッション
16:30	入村式（読谷村役場）
17:00	男女別に分かれ、各民家で 夕食（沖縄料理づくり）・宿泊

3日目

8:50	離村式（読谷村役場）
10:20	那覇市国際通り見学
13:30	那覇空港到着
15:30	那覇空港出発
17:40	中部国際空港到着
18:30	市役所到着・解散

2022年度



2023年度



2024年度



2025年度



■ ひめゆり平和祈念資料館



2022 年度



2023 年度

■ 沖縄県平和祈念資料館



2022 年度



2023 年度

■ チビチリガマ



2022 年度



2024 年度

平和大使コメント



ひめゆり平和祈念資料館を訪れ、ひめゆり学徒隊の過酷な体験について学びました。自分と年の近い学生が、戦時下で負傷者の治療に当たり、先の見えない状況の中で多くの命が失われたことを知り、今の自分には想像できない世界が少し前の日本にはあったのだということを思い知りました。 (2024 年度派遣 加藤 巧河)

報告書から抜粋

■ シムクガマ



■ 座喜味城跡



■ 平和講話及び平和ディスカッション



■ 読谷村入村式



■ 民泊体験



平和大使コメント



平和ディスカッションを通して、「戦争を知らないことが一番怖い」ということに気付かされました。この経験を踏まえ、若い世代に派遣で培ったことを伝え、平和について考えるきっかけを広げていきたいと思います。

(2025 年度派遣 渡邊 智咲)

報告書から抜粋

平和大使の今 6つ質問してみた

大きなチャレンジとなった沖縄派遣

2023年度 沖縄派遣

高山 瑛

(現：デンソー工業学園)



■平和大使に応募したきっかけを教えてください。

中学校で学んだ歴史の授業がきっかけです。戦争についてより深く知りたいと思い、応募しました。

■派遣前と派遣後で、「平和」に対する考え方はどのように変わりましたか。

派遣前は、戦争について戦国時代のような遠い歴史の出来事というイメージを持っていました。しかし、現地で資料を見たり学んだりする中で、剣や弓による戦いとは全く異なり、兵器の進化によってより大きな規模で命が奪われる現実があることを知りました。その結果、戦争に対する印象はより深刻で重いものとなり、教科書や映像の中の出来事のように感じていたものが、実際に起きている現実であると強く実感しました。また、実際の写真を見たことで「本当にあったことなのだ」と改めて認識することができました。

■沖縄派遣中に最も印象に残っている出来事や出会いは何ですか。

読谷村で見た「チビチリガマ」と「シムクガマ」です。実際に入った「シムクガマ」の中は本当に真っ暗で、そこで人が生活していたことが想像できず、強く印象に残っています。また、民泊を受け入れてくださった方から、戦争の歴史だけでなく現在の沖縄の姿についても多く教えていただきました。観光地として発展した一方で、今もなお戦争の影響が残る沖縄の「今」について、理解を深める貴重な機会となりました。

■派遣で学んだことを、どのように伝えてきましたか。

身近な人に積極的に伝えています。戦争の話は直接伝えると重く受け取られることもあるため、日常の会話の流れの中で、平和大使として学んだ経験を自然に伝えるように意識しています。

■平和大使の経験は、その後の生活にどのような影響を与えましたか。

応募する勇気を持てたことが、その後の進路決定にも通じる大きなチャレンジとなりました。

■当時の自分に伝えたいことは何ですか。

平和大使に応募してよかったと伝えたいです。結果として沖縄派遣に参加でき、大きな経験を得ることができました。

■ 現地派遣スケジュール（2025 年度）

1 日目

6：20	市役所集合・出発
6：55	中部国際空港到着
8：10	中部国際空港出発
9：45	鹿児島空港到着
12：00	知覧特攻平和会館見学
15：00	ホテル館富屋食堂見学
17：00	宿泊先到着



2 日目

7：15	宿泊先出発
9：00	鹿屋航空基地史料館見学
10：10	戦跡フィールドワーク (鹿屋平和学習ガイドによる案内あり)
15：40	仙巖園・尚古集成館見学
17：30	宿泊先到着

3 日目

7：50	宿泊先出発
9：00	万世特攻平和祈念館見学
11：15	鹿児島空港到着
13：35	鹿児島空港出発
15：00	中部国際空港到着
16：00	市役所到着・解散



■ 知覧特攻平和会館



■ ホタル館富屋食堂



■ 戦跡フィールドワーク（鹿屋市内）



串良基地跡 地下壕第一電信室



野里国民学校跡地

■ 鹿屋航空基地史料館



■ 万世特攻平和祈念館



平和大使コメント



知覧特攻平和会館で「笑ッテ散口ウ」と書かれた遺書を見ました。同じ年頃の若者が、どのような思いでこのような覚悟に至ったのかを考え、戦争がなければ大切な人と共に普通の生活を送っていたはずだと思うと、改めて戦争の恐ろしさを感じました。

（2025 年度派遣 服部 春香）

派遣報告会

派遣を終えた平和大使は、学んだことや平和への思いを報告書としてそれぞれでまとめました。

毎年度開催されている派遣報告会では、自身の報告書をもとに、市長や教育長に自分の言葉で力強く報告しています。



過去の報告書は、すべて市公式ウェブサイトに掲載しています。





2018年度
広島派遣

式庄 さくら

戦争はいけないという気持ちは変わりませんが、その言葉がもつ重さが私の中で何倍にも大きくなりました。



2019年度
長崎派遣

清水 大翔

原爆で亡くなった人達の思いを胸に、原爆の恐ろしさを伝えていくことが平和への近道だと思いました。



2022年度
沖縄派遣

阪野 由晟

沖縄のきれいな海からは想像できない戦争での悲惨な出来事の記憶を自分も語り継いでいきたいです。



2023年度
沖縄派遣

加藤 さくら

戦争は勝った、負けたで終わりではありません。そして正しい教育はとても大事だと学びました。



2024年度
長崎派遣

小刀稱 百奈花

派遣に行ったことで感じた「当たり前」に感謝し、自分にできることを考え、行動していきます。



2025年度
知覧派遣

高木 すず

特攻隊員の遺書を読み、文章には思いや記憶を未来に伝える力があると感じました。自分も色々な形で伝え続けていきたいです。

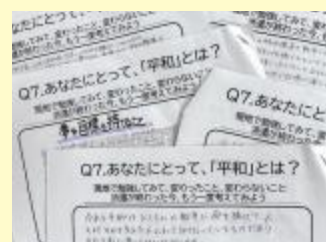


報告後、市長と教育長から、平和大使のこれからの活躍に期待を寄せるメッセージ

コラム

あなたにとって「平和」とは？（派遣後の考え）

派遣後、再び平和大使全員に問いかけ、紙に書いてもらいました。派遣前は漠然と想像して答えていたこの問いに対し、現地でさまざまな経験を得た派遣後は、全員が自分の言葉でより深く表現できていました。



大府市平和祈念戦没者追悼式

大府市では、過去の戦争において犠牲になられた戦没者に対する追悼の意を表すとともに、平和への誓いを新たにするため、大府市平和祈念戦没者追悼式を毎年 10 月に開催しています。

平和大使も参列し、第 1 部の戦没者追悼式に戦没者へ献花を行い、第 2 部では代表者が「平和に向けたメッセージ」として、派遣事業で得た学びを参列した多くの人たちに向けて発表しています。



2025 年度

戦没者への献花



2025 年度

第 1 部の様子



2025 年度

平和に向けたメッセージ



2024 年度

わたしの平和宣言

同時開催

こどもたちによる“平和なまち” 絵画コンテスト応募作品展示

大府市が加盟する平和首長会議では、加盟自治体のこどもたちを対象とした「こどもたちによる“平和なまち” 絵画コンテスト」を実施しています。追悼式当日は、その年に市内のこどもたちから応募があった全ての作品を市役所に展示しています。

過去には本市の 3 人の児童生徒の作品が高く評価され、最優秀賞などを受賞しています。



2022 年
平和首長会議会長賞
／6 歳～10 歳の部
最優秀賞
兼松 玖河 さん
(当時：東山小 5 年)



2022 年
11 歳～15 歳の部
優秀賞
西澤 ころろ さん
(当時：大府北中 3 年)



2025 年
平和首長会議事務総長賞
和田 旺祐 さん
(当時：吉田小 6 年)

「おおぶ平和のつどい」

2025 年度は、戦後 80 年の節目として、若者を主なターゲットとした次の世代へ平和の大切さを伝える特別な取り組み「おおぶ平和のつどい」をアローブで 8 月に開催し、200 人以上の市民らが集いました。

当日は、映画上映のほか、東京大学先端科学技術研究センターの小泉悠准教授を講師に、知覧派遣を経験した高校生平和大使とのパネルディスカッションなどが行われ、登壇した平和大使は、戦争の悲惨さや平和の大切さについて、現地での学びを経た自分の言葉で多くの市民に伝えました。

■ 小泉悠准教授とのパネルディスカッション



井上侑香

Q：人はなぜ「戦争」をやめられないの？

「対立」の解決方法として「武力行使」という考え方が多くの人に根付いてしまっているからでは？



鈴木香澄

Q：なぜ話し合いで解決することができないの？

それぞれの価値観などにより、どうしてもお互い譲歩できないからだと思う。



受付や司会で中学生平和大使が活躍



会場の外では、折り鶴の作成も積極的に呼びかけ



同時開催

平和パネル展



知覧特攻平和会館などから借用したパネルの展示



原爆被害などを疑似体験できる V R ゴーグルの展示・体験

平和大使その後の活躍

平和大使としての活動は、委嘱されたその年だけで終わるものではありません。

現地で実際に見聞きし、学んだことを多くの市民に伝え続けていくことが、平和大使に課せられた大切な使命です。派遣後も平和大使の更なる活躍に期待するとともに、市が主催する各種イベントへの参加や協力を呼びかけています。

■「平和の丘」完成記念セレモニーへの出席

2026年3月、市役所の市民健康広場に整備した「平和の丘」が完成し、完成記念セレモニーが開催されました。平和大使を代表して、田平咲人さんが出席し、丘のシンボルとして設置された「平和の鐘」の除幕や平和関連樹木の植樹を行いました。



「平和の鐘」の除幕



平和関連樹木の植樹
(被爆樹木二世クスノキ)

2025年度
知覧派遣

田平 咲人 さん

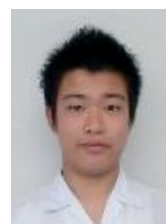


「平和の丘」完成記念セレモニーに出席

知覧という場所自体を知らない同級生も多くいます。自分が平和大使として派遣された経験を生かし、特攻隊のことを始め、現地で見聞きした事実や学んだことをありのまま周囲に伝え、それぞれが平和について理解を深められるよう、今でも友人を中心に伝え続けています。

■「少年の主張」愛知県大会にて愛知県議会議長賞受賞

原田航希さんは、2020年度に開催された「令和2年度少年の主張愛知県大会」（主催：愛知県、愛知県青少年育成県民会議、独立行政法人国立青少年教育振興機構）において、派遣での経験をもとに「僕の見えない個性が教えてくれたこと」と題した発表を行い、愛知県議会議長賞を受賞しました。



2019年度 長崎派遣

■新聞切り抜き作品コンクールにて5年連続最高賞「中日大賞」受賞

石川葵唯さんは、「新聞切り抜き作品コンクール（主催：中日新聞社）」において、小学5年生から5年連続で中日大賞を受賞する快挙を成し遂げました。沖縄派遣経験後に応募した2025年度のコンクールでは、「つながり」をテーマに、沖縄で学んだ戦争体験を次世代へ伝える使命と、「平和へのバトン」を未来へつなぐ思いを込めた作品を制作し、受賞しました。



2025年度 沖縄派遣

|まとめ

インターネットの急速な発達により、私たちは場所を問わず膨大な情報にアクセスできるようになりました。だからこそ、画面越しの情報だけで満足するのではなく、自ら「現地」に足を運び、五感を通して体験することの価値は、ますます高まっています。

「百聞百見は一験にしかず」という言葉があるように、平和大使派遣事業には、現地を訪れ、自分の目で見て、当事者の話を直接聞くことができるという大きな意義があります。平和について考え、自ら行動する市民を増やしていくためにも、派遣で得た学びや気づきを多くの人に伝える平和大使の存在は欠かせません。この記念誌をご覧になった方にとって、平和大使派遣事業への関心を深め、平和大使の活動の意義を知るきっかけとなれば幸いです。そして、平和への思いを次の世代へつなぐ「平和のバトン」のつなぎ手となっていただけることを願っています。



2018 年度 広島派遣・原爆ドーム



2019 年度 長崎派遣・長崎原爆資料館



2022 年度 沖縄派遣・座喜味城跡



2023 年度 沖縄派遣・平和ディスカッション



2024 年度 沖縄派遣・読谷村長を訪問



2025 年度 知覧派遣・小塚慰霊塔（鹿屋市）

平和大使派遣事業参加者一覧

	派遣年度	派遣先	学校名	学年	名 前
1	2018	広島	大府中学校	2	佐 藤 加 奈
2	2018	広島	大府中学校	2	山 田 陽 菜
3	2018	広島	大府西中学校	2	加 藤 駿 一
4	2018	広島	大府西中学校	2	坂 野 夏 月
5	2018	広島	大府北中学校	2	式 庄 さくら
6	2018	広島	大府北中学校	2	野 村 茉莉香
7	2018	広島	大府南中学校	2	城 知 希
8	2018	広島	海陽中等教育学校	2	星 野 竜 馬
9	2019	長崎	大府中学校	2	足 立 愛 生
10	2019	長崎	大府中学校	2	工 藤 香 奈
11	2019	長崎	大府中学校	2	塩 見 真 弥
12	2019	長崎	大府中学校	2	清 水 大 翔
13	2019	長崎	大府西中学校	2	木 村 柚 斗
14	2019	長崎	大府北中学校	2	石 田 暁 己
15	2019	長崎	大府北中学校	2	原 田 航 希
16	2019	長崎	大府北中学校	2	福 元 里 花
17	2022	沖縄	大府中学校	2	香 月 芽 優
18	2022	沖縄	大府中学校	2	三 浦 健 寛
19	2022	沖縄	大府西中学校	2	阪 野 由 晟
20	2022	沖縄	大府北中学校	2	土 倉 悠 暉
21	2022	沖縄	大府南中学校	2	柿 本 美 悠
22	2022	沖縄	大府南中学校	2	深 谷 陽 太
23	2023	広島	大府中学校	2	井 上 和花南
24	2023	広島	大府中学校	2	西 川 実 寿
25	2023	広島	大府中学校	2	藤 田 実 和
26	2023	広島	大府西中学校	2	木 村 晴 美
27	2023	広島	大府北中学校	2	清 水 美 来
28	2023	広島	大府北中学校	2	西 勇 樹
29	2023	広島	大府北中学校	2	渡 邊 颯
30	2023	広島	大府南中学校	2	大須賀 涼 音
31	2023	沖縄	大府中学校	2	加 古 蒼 大
32	2023	沖縄	大府中学校	2	高 山 瑛
33	2023	沖縄	大府西中学校	2	加 藤 さくら
34	2023	沖縄	大府西中学校	2	久 納 一 平
35	2023	沖縄	大府北中学校	2	金 納 知 咲
36	2023	沖縄	大府南中学校	2	佐 藤 和 咲
37	2023	沖縄	大府南中学校	2	鈴 置 晋 平
38	2023	沖縄	愛知中学校	2	関 戸 美 舟

学校名及び学年は派遣年度時

	派遣年度	派遣先	学校名	学年	名 前
39	2024	長崎	大府中学校	2	池 田 優 里
40	2024	長崎	大府中学校	2	中 村 颯 斗
41	2024	長崎	大府西中学校	2	小刀稱 百奈花
42	2024	長崎	大府西中学校	2	戸 田 楓 菜
43	2024	長崎	大府西中学校	2	山 本 晃 正
44	2024	長崎	大府南中学校	2	川 上 楓 果
45	2024	長崎	大府南中学校	2	柴 田 理 仁
46	2024	長崎	大府南中学校	2	伴 帆 夏
47	2024	沖縄	大府中学校	2	永 田 姫 愛
48	2024	沖縄	大府中学校	3	加 藤 巧 河
49	2024	沖縄	大府西中学校	1	山 内 み ゆ
50	2024	沖縄	大府西中学校	3	松 井 悠 誠
51	2024	沖縄	大府北中学校	1	竹 本 清 登
52	2024	沖縄	大府北中学校	1	松 原 唯 奈
53	2024	沖縄	大府南中学校	1	浅 田 菜 那
54	2024	沖縄	大府南中学校	3	加 藤 優 成
55	2025	広島	大府中学校	2	早 川 一 路
56	2025	広島	大府西中学校	1	鈴 木 誠一郎
57	2025	広島	大府西中学校	3	楠 元 菜 穂
58	2025	広島	大府南中学校	3	深 谷 洵 太
59	2025	広島	大府南中学校	3	深 谷 泰 雅
60	2025	沖縄	大府中学校	1	村 田 遥 奈
61	2025	沖縄	大府中学校	2	成 田 栞 麻
62	2025	沖縄	大府中学校	2	松 下 颯 樹
63	2025	沖縄	大府中学校	2	六 車 美 遥
64	2025	沖縄	大府中学校	3	杉 浦 雛 月
65	2025	沖縄	大府西中学校	2	山 田 遥 真
66	2025	沖縄	大府西中学校	3	田 平 空 々
67	2025	沖縄	大府北中学校	1	斉 藤 多 穂
68	2025	沖縄	大府北中学校	2	小 島 利 生
69	2025	沖縄	大府南中学校	3	上 村 琉
70	2025	沖縄	大府南中学校	3	渡 邊 智 咲
71	2025	沖縄	南山中学校女子部	2	石 川 葵 唯
72	2025	知覧	名城大学附属高等学校	2	井 上 侑 香
73	2025	知覧	星城高等学校	2	鈴 木 香 澄
74	2025	知覧	金城学院高等学校	2	高 木 す ず
75	2025	知覧	名古屋市立工芸高等学校	3	田 平 咲 人
76	2025	知覧	愛知商業高等学校	2	服 部 春 香

大府市の平和に関する取り組み

2016年に平和都市宣言を行った大府市は、平和大使派遣事業のほかにも、さまざまな平和事業を実施しています。

■ 大府市平和祈念戦没者追悼式

毎年10月に開催しています。

2部制で開催し、第1部では過去の戦争で亡くなられた方々に追悼の意を表する「戦没者追悼式」、第2部では平和大使による派遣報告などを通じて、平和の尊さや大切さを引き継ぐことを目的とした「平和祈念事業」を実施しています。

■ 平和に関するパネル展の開催

戦争による被害や被爆の実相を次世代に正しく伝えていくため、市が所有するパネルや読谷村、国内の資料館等から借用したパネルを活用し、毎年市役所やアローブなどで展示を行っています。

また、アウトリーチ型の取り組みとして、市内中学校においてもパネル展示を開催し、若い世代への平和意識の醸成を図っています。



■ 平和ムーブメントの促進

平和に関するパネル展や全世代型サロンなどの機会を活用して市民の皆様から折り鶴を募って作成した千羽鶴を平和大使が派遣先で捧げています。

また、2025年度に市役所の市民健康広場に整備した「平和の丘」には、シンボルとして「平和の鐘」を設置しました。訪れた方が平和への願いを育み、未来へとつないでいく場となるよう願いを込めています。



■ 平和給食の実施

未来を担うこどもたちに平和の尊さ・大切さを考えてもらう機会のひとつとして、「沖縄慰霊の日」である6月23日に合わせて、小中学生が戦時中の食事を体験する「平和給食」を2025年から提供しています。



大根葉ご飯、ふかしいも、すいとん汁

■ 地域に残る戦争資料の活用、デジタル平和映像の制作

戦時中に使用されていた資料は、歴史民俗資料館で保管しています。

また、戦争を知らない世代が年々増加する一方で、戦争を実際に体験された方々は希少な存在となりつつあります。そのため、戦争の記憶を風化させることなく次世代へ継承するため、市内在住の戦争体験者の体験談を映像として記録し、市公式ウェブサイトで公開しています。



■ 平和首長会議・日本非核宣言自治体協議会との連携

大府市は、2010年に平和首長会議に加盟、2025年に日本非核宣言自治体協議会に加入しました。以降これらの団体が主催する事業に積極的に参加しています。



市長が出席した日本非核宣言自治体協議会総会

■ アオギリ植樹プロジェクトの推進

平和首長会議事務局から譲り受けた被爆樹木二世アオギリの苗木を市内全ての小中学校へ植樹し、苗木の育成を通じて平和意識の醸成を図っています。



被爆樹木二世アオギリ（神田小学校）

■ 自治体間、他団体との連携

沖縄県読谷村との交流や、大府市遺族会、愛知県原水爆被災者の会（愛友会）大府支部との連携を通じて、平和大使派遣事業や平和に関するパネル展などを実施し、多様な団体とともに平和事業を推進しています。

大府市の平和のあゆみ（年表）



平和都市宣言文

緑香るにぎわいの中、子どもたちの笑い声が響き、汗流し働く若者の姿や地域で活躍する元気な高齢者の姿が目映るまち、健康都市おおぶ。大府市は、戦争のない平和な社会のもと、健康都市づくりに取り組み、着実な歩みを続けています。

世界の恒久平和は、人類共通の願いであり、日本国憲法の普遍の原理です。しかし、今なお世界各地で、核兵器の保有、テロ行為、武力紛争などの平和を脅かす様々な問題が起きています。

先人から引き継いだかけがえのない平和のバトンを守り、次の世代の子どもたちにしっかりと渡していくことは、今を生きる私たちの果たさなければならない重大な責務です。私たち大府市民は、一人ひとりの命を大切に、核兵器、テロ行為などの脅威のない平和な社会の実現を強く訴えます。

日本国憲法の公布から70年目の節目の年に、恒久平和とあらゆる争いのない社会の実現を願い、ここに「平和都市」を宣言します。

2016年9月27日 大府市



平和都市宣言碑 (2017年9月1日設置)

大府市平和大使派遣事業記念誌

発行年月	2026年9月
発行者	愛知県大府市
	〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目70番地
	担当 地域福祉課 TEL 0562-45-6228

